

# DVとは…

DVには、身体的暴力に限らず、精神的暴力、性的暴力、経済的暴力、社会的暴力といった以下のような様々な暴力が含まれます。

## ● 身体的暴力

殴る、蹴る、引きずりまわす、突き飛ばす、首をしめるなど  
(直接何らかの有形力を行使し、被害者に強い恐怖感をいたがせる行為)



## ● 精神的暴力

無視する、大切にしているものを壊す、大声でどなる、おどす、ののしるなど  
(言動等により被害者の自尊心を傷つけ、無力な存在であることを信じさせ、被害者を支配しようとする行為)



## ● 性的暴力

無理やりポルノなどを見せる、避妊に協力しない、性的な行為を強要するなど  
(被害者の性と生殖に対する侵害、無関心、責任を放棄する行為)



## ● 経済的暴力

生活費を渡さない、「誰のお陰で生活ができると思っているのか」と言う、お金を取り上げる、貯金を勝手におろす、仕事をさせないなど  
(被害者の経済的自由を奪う行為)



## ● 社会的暴力

交友関係などを細かく監視する、実家との付き合いを制限する、外出させないなど  
(社会に参加しようとする被害者に対して、社会との関係を断絶させようとする行為)

なお、「児童虐待の防止等に関する法律」では、家庭でのDV(身体的暴力及びこれに準ずる心身に有害な影響を及ぼす言動)は児童虐待にあたると定められています。

DVは、外部からその発見が困難な家庭内において行われるため、潜在化しやすく、しかも加害者に罪の意識が薄いという傾向にあります。このため、周囲も気付かないうちに暴力がエスカレートし、被害が深刻化しやすいという特性があります。

その背景には、夫が妻に暴力を振るうのはある程度は仕方がないといった社会通念、妻に収入がない場合が多いといった男女の経済的格差など、個人の問題として片付けられない、構造的問題が存在しています。

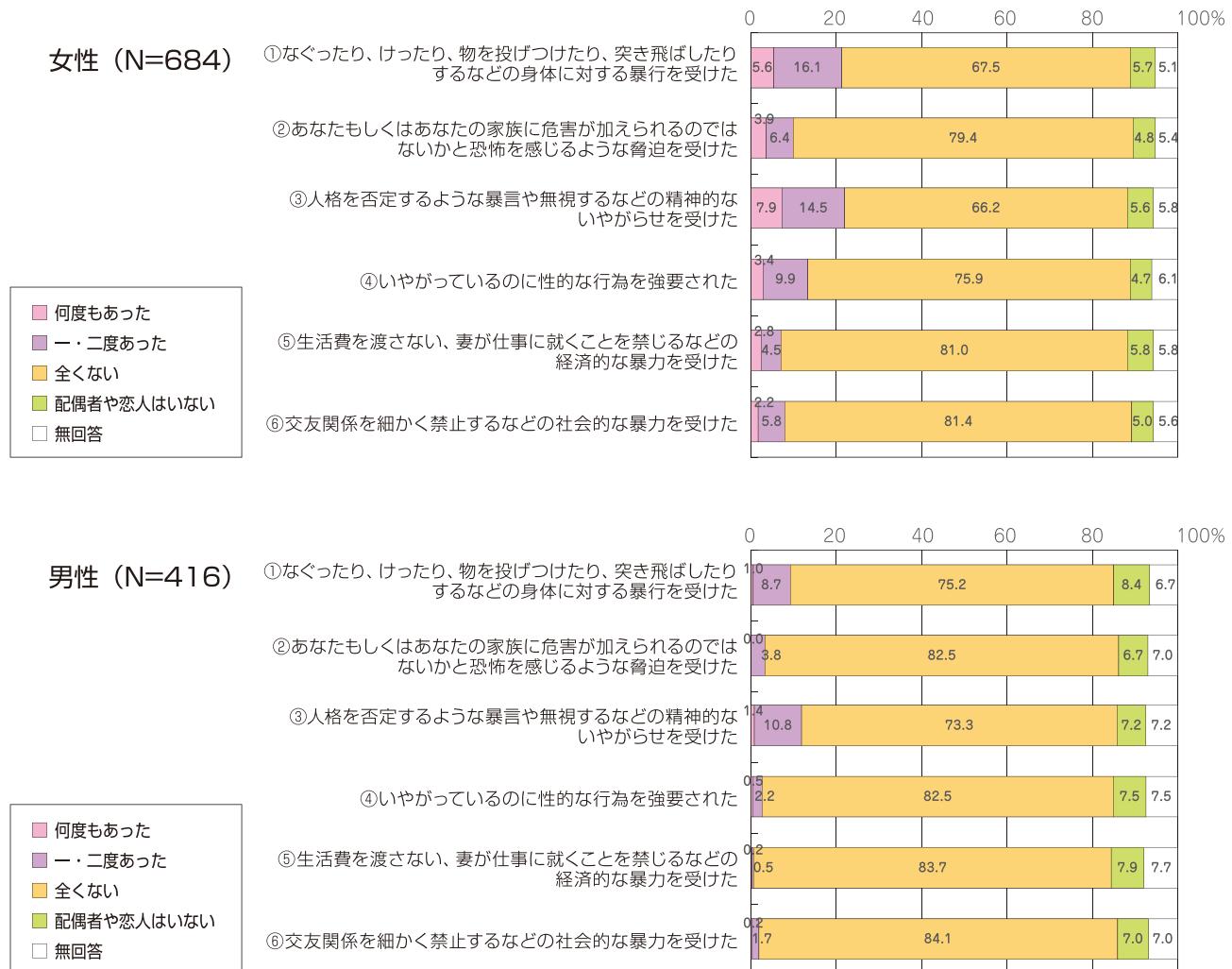
そして、DVは、「パワーとコントロール(力と支配)」の関係であると言われています。優位な立場の人が、自分の力(権力)を利用し、弱い立場の人を支配することであり、その力には肉体的な力だけではなく、社会的な立場や経済力、性差に基づく不平等な取り扱いなど、あらゆる力が含まれます。

また、DVにはサイクルがあるとも言われており、加害者が常に被害者に対して暴力を振るっているわけではない場合、そのことが被害者や周囲の受け止め方を複雑にしています。サイクルには、緊張が高まり暴力となって爆発する「暴力爆発期」、暴力を振った後は後悔し、しばらくの間平穏になる「ハネムーン期」、暴力のエネルギーが高まる「緊張形成期」という3つがあると言われています。

# DVに関する現状

## ● DVの被害経験等(市民意識調査結果)

「男女共同参画社会をめざした市民意識調査」(平成23年)によると、配偶者や恋人などから、身体に対する暴行、脅迫、暴言や無視、性的行為の強要、経済的な暴力、社会的な暴力の何らかの暴力が「何度もあった」又は「一、二度あった」人は、女性で36.5%、男性で18.0%です。身体に対する暴行が「何度もあった」人は女性で5.6%、男性で1.0%です。



何らかの暴力があった人の被害後の対応については、「どこ(だれ)にも相談しなかった」が女性で48.8%、男性で58.7%、「家族・親戚に相談した」が女性で33.6%、男性で18.7%、「友人・知人に相談した」が女性で26.4%、男性で18.7%です。

